

大学院授業参観と総長先生のご指導から学ぶ

教育学部長
東京学芸大学名誉教授
教育学博士 鈴木路子

資格試験問題と解答が添付された招待メールを受け、本日1月30日(土)13:10~16:20の心理学研究科修士課程院生の授業・「臨床心理士・公認心理師対策授業」(新井先生担当)に参加した。

授業開始前、すでに総長先生は着席され、担当教員に指示を出されていた。

- ①どうやったら、合格するか?を真剣に考える
- ②その目的に合わせて授業をすることの必要性
- ③余分なことは、しゃべらない。学生は、混乱するばかりである。

上記の3点は、授業者として、最も重要なポイントである。

この重要な原点をよく理解し、身に付けることは、極めて難解であると思う自分自身が情けなく思われると共に、東京福祉大学大学院学長・総長・教育学博士 中島恒雄先生の極めて自然体の言葉と超越した力量に感服するばかりであった。

シンプルな言葉、一糸乱れぬ方向性、このことが、本学をここまで大きくした原動力であると痛感される。

2004年に東京学芸大学大学院より、赴任した私は、いつまでたっても、上記の3点が身に付かないことを恥ずかしく、また大学に対して申し訳なく感じ入る次第である。

過去のエピソード*として、総長先生の述べられた以下の出来事は、全く大学教授とは何なのであるうか? 学生のためにある教員(教授)、学生が身を立てられるための存在としての位置づけをもっともっと真剣に考えるべきと痛感される。このような視点に立って、大学経営をされる私立大学経営者はいらぬだろうか? 卓越した大学として、表彰されるべきではないか?と思われた。

*「大学の教授に受験対策授業を依頼していた時の合格者0であったこと、学生の質が悪いことをその原因としたこと、――」

*は、よくあることである。反省しきりである。

本日の新井先生の対策授業は、前回に比して、格段の進歩を感じると共に、13:10~開始された授業の進展と共に、身につについていることが実感された。さすがに若い有能な人物であり、ご指導の賜

物と思われる。8問を繰り返し、振り返りの暗記を加えられたことに感動した。私も院生たちと一緒に
なって、我を忘れて、頑張ってみた。集中し、疲かれた、でも清々しい、そのような授業後の気持を体
験した。私も負けずに頑張りたい。この一言が、本日の授業後の感想である。ありがとうございました。